

表2 幼児をもつ親を対象とした学習計画例

学級の名称		福島市〇幼児家庭教育学級		学習場所		〇 公民館 〇 学校		
開設 期	間	昭和54年5月 日より 昭和55年3月 日まで		時間数	学級生数	男	女	計
		22時間		名		40名	40名	
期	日	学 習 課 題	時数	講 師		方 法	対 象	
				職名・氏名				
5		開講式		実施機関長				幼 児 対 象
5		家庭環境と子供の成長	2	小学校長	講話しあい			
6		子供の問いかけと親の態度	2	元幼稚園長	フォーラム			
7		子供とともに	2	体育指導員	実技			
9		子供の健康	2	医大講師	講話しあい			
10		テレビと子ども	2	小学校教諭	講義、実技			
11		バランスのとれた食事	2	栄養士	〃			
11		親と子の工作教室	2	幼稚園教諭	〃			
12		家庭地域の行事のあり方	2	小学校長	話しあい			
12		もちつき大会、親子ゲーム	2	体育指導員	実技			
1		むし歯をなくそう	2	歯科衛生士	講義、実技			
2		家庭と情操教育	2	社会教育指導員	講話しあい			
3		学校教育と家庭教育	2	小学校長	講義			
3		年間のまとめ	2		話しあい			
3		閉講式						
合 計		(学習回数13回)	時間 26	(講師延べ11名)				

④ 人から言われて行動するが自分からはなかなか手を出さない。

(四) 社会性

① 入園一か月くらい親の送り迎えをしてもう園児がいる。部屋に入っても気に入らぬことがあると逃げ出してしまふ。

② 友達の中になかなかとけこめず、ひとりぼっちを好むような児がみられる。

③ 朝も帰りもあいさつができない。トイレにも行きたくても言えない。

④ ちよつとのことではけんかをする。がまんができない。

観察した主な点を述べたが、いずれの項目もわが子の健全育成を願う面から課題としてとり上げねばならぬものと

思われる。

学習課題を決定するにあたり、これらの課題解決へ現象面からの取り組み方もあろうが、親として一般的に理解しておくべき内容として、乳幼児期における家庭教育の振興方策について「(昭和四十九・六・二十四社会教育審議会建議)を基底において学習課題を編成する必要がある。

ここでは幼児期の親を対象とした家庭教育学級の課題設定について述べたが乳児、小学生、中学生をもつ親を対象とした各学級においても当面する課題と一般的に親としてそなえておかねばならぬ学習課題があるわけで、地域の実態等しゅうぶん調査の上、課題設定を慎重におこなわなければならない

と思われる。
幸い本市は講師陣容に恵まれているので、どのような学習課題を編成し、学習者に提供するかが今後の家庭教育充実のキーポイントとなろう。

四、家庭教育重点施策

① 実施機関長・担当者会議の開催

学級の運営指導上の問題や学習展開の方法等、会議の内容をたかめ実践にむすびつくようにする。

② 家庭教育研究会の開催

地域課題の把握学習内容への取り組み等研究協議をし、市家庭教育学級全体の振興に役立てる。

③ 指導者研修会

社会教育指導員、婦人教育指導員等



水あそび



絵かきあそび

の研修の内容を深め共通理解のもと指導にあたる。

④ ボランティア活動の助長

⑤ 情報の提供

五、今後の課題

各学級とも学習課題の編成に苦労している。学級生自身の持っている問題が引き出せるような学習課題の編成や、学習方法について研究くふうをしていかなければならないし、特に乳幼児対象のハガキ通信、TV放映の視聴など学級としての活用や組織化をはからなければならぬ点が数多くあると思われる。